



身近な県政にするためには、県民とより多くの情報を共有すること。

タイトル写真左から、「上海市浦東地区摩天楼」「上海市旧市街」「杭州市日本茶道の源 径山寺」

1. 6月議会を振り返って(6/22~7/11)

6月議会は、補正予算では災害廃棄物の広域処理における、がれきの処分費や放射能濃度の測定に要する経費(1億5,600万円)で今後、県内市町で本格受け入れが進めばさらに追加)、富士山静岡空港の経営体制の検討に関わる調査費用(1,800万円)が審議・承認されました。

また、今回は浜松市で創業された企業より300億円を津波対策の防潮堤整備費用として寄附していただき、県内全域の津波対策が推進されます。ご厚情に心より感謝します。

防災関連では、県が担うものとして、県内市町の地域防災計画の改定に活かすための「対策方針」を本年11月までに公表、第4次地震被害想定は来年6月までに策定します。今、津波被害に関心が集まっていますが、第4次被害想定では「地震と連動する富士山噴火」が盛り込まれます。

南海トラフ震源域の大地震による津波高が、従来予測の二倍(富士海岸で6.2m)や連動する富士山噴火など、不安がつきまといいますが、正しい情報提供と対策が講じられるよう、当局と密な対応に努めてまいります。

さらに、災害時には在日米軍の協力も東日本大震災で効果が大きかったことから、今後の防災訓練への参

加等が計画されています。

沿岸部に集中する県内市町の津波被害への懸念から「防災・減災機能の充実・強化対策」、内陸部を通過する新東名高速を活用した「地域資源を活用した新産業の創出・集積」、「新しいライフスタイルの実現」、「暮らしを支える基盤整備」を兼ねて、新東名高速を機軸とした「内陸フロンティア構想」が注目されています。

これらの実現のために規制緩和や、税制・財政上の支援措置を盛り込んだ「総合特区」申請を、国に対し県が計画しています。市街化調整区域や農地が多い地域での都市計画の見直しなどで、「超ウルトラC」が必要となります。現在、各市町に構想を説明し理解を求めています。ハードルは高そうです。しかし、実現すれば、相当の効果が期待できます。

私が所属する産業委員会では、「茶業支援」が大きな議論になりました。特に最大の生産地である富士地区は、今期が一番茶が風評被害もあり、大きな損害を被っています。二番茶、三番茶を付加価値の高い「発酵茶」への取り組みも始まりましたが、複雑な取引形態と地域特性で課題が山積しています。関係者と十分な意見交換し対策を検討していきます。

2. 県事業のお知らせ

① 「内陸フロンティア総合特区」

「災害に強いまち」と「新産業の創出」を目指し、新たな施策がスタート。市町と協議へ。息の長いプロジェクトに積極的関与



② 「先端医療総合特区」

静岡がんセンターを基軸に、富士市以東地域で総合特区が認定され、その内容が充実。医療機器従事者の規制緩和等



目次:

- 1. 6月議会を振り返って P1
- 2. 県事業のお知らせ P1
- 3. 所属する「産業委員会」P2での質問項目
- 4. 6月議会における注目の論戦 P2
- 5. 視察報告 P3
- 6. 最近お会いできた海外の要人達 P4
- 7. 富士地域政策課題と進捗状況(がれき焼却) P4
- 8. ホットなニュース P4
- 9. 県政相談窓口 P4

ハイライト:

- ・がれき処理支援体制の充実と災害に強いまちづくり
- ・安心安全を確保することと新たな産業創造を目指し
- ・静岡県の産業の実態と課題及び対策
- ・浜岡原発再開に知事は
- ・注目の論戦「津波対策」の現実
- ・海外視察から見える、日本の現状と課題
- ・地元の資源を活かし新たな挑戦、国際線の拡充



県議会議員2年目は、**常任委員会「産業委員会」の副委員長として就任。**当局とのつながりはより深まったが、会議進行役で質問の機会が減った。



昭和12年から使われている静岡県庁本館。県議会が入っている。



2年目を迎えた本会議場。最後まで残った無所属議員が「富士の会」を創設し、席順が一部変わったが、私の席は変わらず。



議会前の議員控え室。質問の準備などに追われ余念がない。心地よい緊張感が漂う。

津波対策は、沿岸部に人口密集地が集中する静岡県では最大の関心事。大きな壁で津波を防ぐことが非現実的と理解するには時間がかかる。

3. 所属する「産業委員会」での質問項目 (●は当局答弁概要)

所管事務全般が質問対象で事前通告は無く当日開示。担当委員として自ら質問を設定。

- (1) 監査報告から、農林技術研究所3件、浜松技術専門学校1件の課題と対策
 - 入札等におけるミスが目立った。県民に厳しく身内に甘い体制を反省する
- (2) 茶業研究センター発酵茶研究施設の設置と製造技術取得支援について
 - 二番茶、三番茶の付加価値を高めるために、発酵茶製造技術を広める
- (3) 新東名を活用した産業振興における、市街化調整区域や農地転用について
 - 総合特区による土地利用の規制緩和等を念頭に、市町と協議し推進する
- (4) 新卒者就職支援策について
 - 県内中小企業への就職促進など、ミスマッチ解消に努め就職率が向上した
- (5) 静岡県における農畜水産物の放射性物質検査
 - 茶の風評被害は地区により顕著。一番茶を主力とする農家支援も検討
- (6) 企業立地の動向
 - 津波が懸念される沿岸部の企業留置対策として、内陸部に受け皿を用意
- (7) 東電電気料金値上げに伴う企業の自衛策支援で、発電施設等の規制緩和を
 - 環境アセスメントに3年かかるようでは取り組みが鈍るので条例改正も視野

<産業委員会の所管事務(担当分野)>

- 農林業・水産業・商工業等の産業の振興について
- 県内産業に係る技術の開発及び支援について
- 流通について
- 労働について
- 工業用水道事業及び水道事業について
- 地域振興整備事業について
- 労働委員会の行政運営について



産業委員会副委員長として、委員長とともに議事進行役を担う。各委員の質問に対する、当局の答弁漏れがないか常にチェック。

① 東日本大震災がれき受け入れ(その3)

島田市で本格的ながれき受け入れが始まり、裾野市、静岡市、浜松市、富士市などが試験焼却を終えた。放射性物質の計測データに問題はないが、焼却灰の受け入れが確定していない自治体もある。

② 浜岡原発の再開はどうなる(その3)

知事は、「脱原発」「即永久廃炉」は科学的根拠がなく無責任だと評した。使用済み核燃料の目途も立たず、安全が確保できていない現状は知事と同感。再開の可否は安全基準が明確になった後の判断。

4. 6月議会における注目の論戦(津波対策)

焼津市は市街地のほとんどが海岸に面し、想定される津波被害を恐れて、住民や企業が市外に流出している。学校や幼稚園などは入学・入園する生徒も減ってしまい、運営に支障をきたす事態も想定される。隣の藤枝市は山側であるため、焼津市民の移転先となり人口が増加した。県の津波対策はその規模により二分される。L1と称される「100年に一度の大津波」は「被害を防ぐ」対策を、L2と称される「1000年に一度の巨大津波」は「防ぐことは困難」と認識し、いかに速やかに逃げることができるかの対策に集中する。ソフト・ハードを取り混ぜて、対策を講じていく。共通の対策は「5分以内の避難」を基本とする。来年6月までに策定される「第4次地震被害想定」では、先の2つの基準で対策が進められる。



5. 視察報告

●海外視察(その1)



環境先進国ドイツのミュンヘンを走る路面電車。ドイツ国内はどこに行ってもこのような光景見られる。真に市民の足。



フランクフルト郊外の火力発電所。脱原発に取り組む中、発電の主力は火力で、各都市の周辺に配置されている。



静岡県浙江省投資貿易セミナーで、経済プロジェクト調印式に臨んだ両県省の関係者。まずは経済交流から。



静岡県浙江省2012緑茶博覧会に出展した、静岡県内緑茶紹介ブース。地元富士茶も展示されていた。

●海外視察(その2)



中国湖北省武漢市にある日本貿易振興機構(JETRO)で、中国内陸部の経済状況を伺った。天野さんは浜松出身。



中国を代表するIT企業「アリババ」の銭江峰さん。年間8兆円が商取り引きされるマンモス企業。中国貿易の要。



タイバンコクの南東のアマタナコーン工業団地に進出した、静岡に本社があるレントタイランドを訪問。



バンコクの北、アユタヤにある工業団地のニコンタイランドを訪問。タイの大洪水を乗り越え、日系企業の底力を見た。

●新東名高速開通式、若手茶農家の挑戦、私学の現場



4月14日、新東名高速道路の開通式が、新富士ICで開催された。災害に強い新たなまちづくりの基軸となると期待。



東京巣鴨で「茶ら男」と称して、富士市の若手茶農家が富士茶をPR。農業の6次化を進める手段として市場の声を聞く。



県議会私学振興議連の視察で、富士リハビリテーション専門学校を視察。国家試験を取れば理学療法士として活躍。



沼津市にある象山幼稚園を視察。私学ならではの教育方針により、のびのびとした園児達の笑顔が印象的だった。

●熟年パワーを全国に、交通安全運動、TPP研修、富士山の地下水研究成果発表



静岡県すこやか長寿祭スポーツ大会開会式に出席。「熟年パワーを全国へ」の横断幕にこちらがハッパをかけられた。



春の交通安全運動初日の街頭呼びかけに参加。年4回開催されるこの運動に、今年で14年目の参加。



TPPを知るための県民学習会に参加。農業や医療・保険分野だけでなく、「毒素条項」という未知のリスクに驚き。



静岡県環境衛生科学研究所の研究テーマ「富士山における水環境の解明と持続可能な地下水利用」を学んだ。

6. 最近お会いできた海外の要人達



駐日ベトナム特命全権大使、ドン・スアン・フン閣下。本年2月に着任。前任はベトナム外務省のNo.2で経済対策担当。



中国浙江省人民代表大会 趙洪祝書記。前任者は現在の中国の指導者胡錦濤主席の後継候補の習近平氏。



中国浙江省の夏宝龍省長。行政のトップで県知事といったところ。二胡を自ら奏でる多才な方で話も魅力的。



3月25日に富士山静岡空港と台湾台北空港間に就航した、チャイナエアラインの社長、孫洪祥氏。

7. 富士地域政策課題と進捗状況（がれき試験焼却、災害対策、交通安全施設見直し等）



6月5日、岩手県山田町のがれきが試験焼却のために富士市へ到着。行政や市民代表が立ち会う中、作業がスタート。



富士市神戸地区新東名高速道下の河川壁面が、大雨による浸食等で不安定な状態に。県管理のため担当と協議中。



富士市鈴川地区の防潮林は都市化の中で宅地化と保護とで関係者が苦慮することがある。適切な判断が求められる。



富士市原田地区の製紙工場で発生した火災において、防火水利の確保が問題に。小さな水路の活用は今後調査へ。

8. ホットなニュース

◆ 遠州織物を素材とした夏用ウェア(武襯衣:むしや)

静岡県の地場産業である繊維産業(遠州織物)を内外にアピールし、普及させるために生産者を県が支援し、衣裳デザイナーのワダエミ氏を迎え、夏用ウェアを作成した。6月議会でも知事や議長をはじめ多くが着用していた。しかし、初期作品であり、デザインの改良や低価格化が期待される。



富士市中里地区の根方街道(県道)の交差点。中央の点滅ランプの不具合から、交通事故発生懸念で県対応へ。



富士市浮島地区で開催された「市行政懇談会」へ参加。要望の中には県や国の関わりもあり、地元の生の声を拝聴。

◆ 富士山静岡空港 国際路線の拡充

3月25日にチャイナエアラインによる台北空港間の週3便の定期路線が新規就航した。また、6月18日には、中国東方航空がそれまでの上海空港路線を延伸し、湖北省武漢まで直行できるようになった。武漢線はこれまで成田便しかなく、日本からは二路線目となる。国内線は今ひとつだが、国際線の拡充は地方空港としては頑張っている。

◆ 6月議会で決定した国へ提出される意見書

- ① 東京電力(株)の電気料金値上げに関する意見書
- ② 災害廃棄物の広域処理に関する意見書
- ③ 北朝鮮による日本人拉致問題の早期解決を求める意見書
- ④ 災害に強い社会資本の整備に関する意見書
- ⑤ 子宮頸がん等ワクチンの定期接種化についての意見書

9. 県政相談窓口

「県政相談窓口」とは、道路・河川等の整備の他、地域の課題についてご相談を承ります。

市と県、国の担当範囲が明確でない場合もありますが、こちらで調査いたしますので、区別なくお気軽にお問い合わせ下さい。

ご相談いただいた内容については、必要に応じ関係機関に確認し、その可否についてもご返事いたしますが、お時間がかかることもありますので、ご容赦下さい。



**発行者 静岡県議会議員
鈴木すみよし事務所**

県政相談窓口および「らしんばん」発行者連絡先
富士市比奈1418番地の2

Tel 0545-34-0683

Fax 0545-38-0070

メールアドレス: hi.mena@tokai.or.jp

ホームページ: <http://sumiyoshi.info/>

ブログ: <http://blog.goo.ne.jp/sumiyoshi1956/>